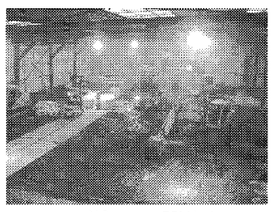
Your Dream, Our Challenge 04

人と夢の間に。

環境問題。意外にも
足もとが見過ごされていました。

暮らしを支える土地、もしそれが汚染されていたら･･･。環境への関心が高まる中、土地の有効活用のためにも汚染土壌の浄化は不可欠です。ハザマはこの分野にいち早く取り組み、トップレベルの調査･処理技術を全国で展開しています。たとえば、住宅密集地でも採用できるホットソイル工法。土壌にホットソイル（生石灰）を混ぜて発熱させ有機化合物を揮発･回収するこの工法は、汚染土壌を現地で処理、工期が短く、汚染物質が拡散しないなど優れた特長を持っています。積み重ねたノウハウから生まれる、安心の土壌づくり･･･

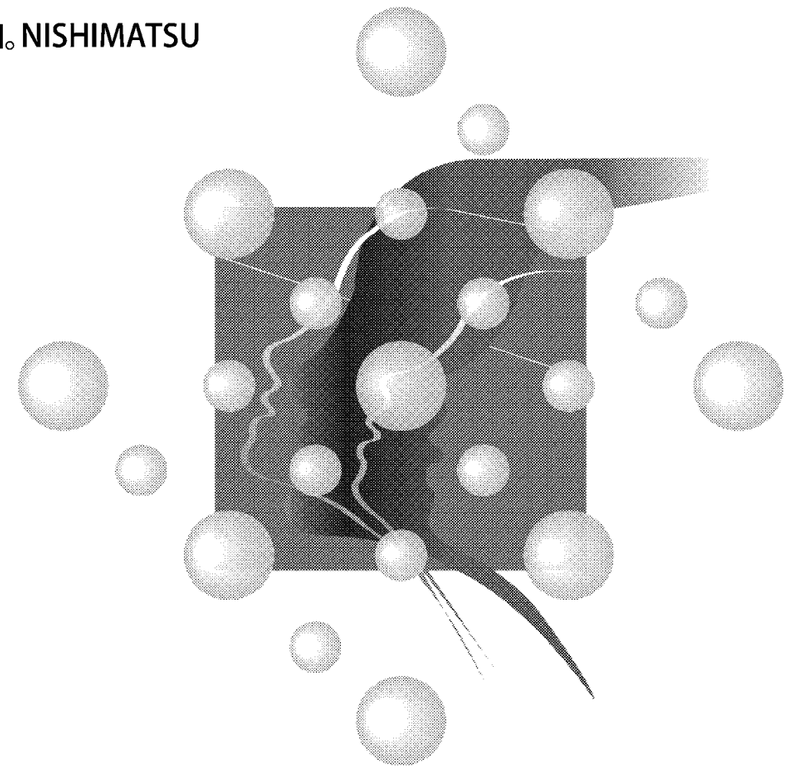
あなたの夢が私たちの挑戦。
人と夢の間に、ハザマがあります。



ホットソイル工法®により工場跡地が
安全な集合住宅用地へ。
Aマンション建設予定地　2005年

Hazama
株式会社 間組（ハザマ）
〒105-8479 東京都港区虎ノ門2-2-5 TEL.03-3588-5700
http://www.hazama.co.jp/

自然との調和。NISHIMATSU



自然と人との架け橋。私たちは快適な空間を創造します。

自然と人との共生。快適な空間の創造。
これこそ人類全てが目標に掲げ、次世代に受け継がなければならないテーマです。私たち西松建設は、この精神（こころ）を忘れず、これからも自然と技術が融合する環境づくりを目指します。

西松建設
〒105-8401 東京都港区虎ノ門1丁目20番10号
電話 03(3502)0232
http://www.nishimatsu.co.jp/

データセンター建設 需要急増

クラウドコンピューティングサービスの普及拡大などを背景に、データセンター（DC）建設の需要が高まり、計画や施工を手がける大手ゼネコン各社は〝DC特需〟の様相を呈している。国内建設投資が減少する中で大手ゼネコンは、地方自治体が管理する遊休工業団地のDC転用、米グーグルやヤフーなどDCユーザー大手を国内に誘致するといった、これまでにない提案にも乗りだしている。

地方と都市 二極化

安定成長見込む

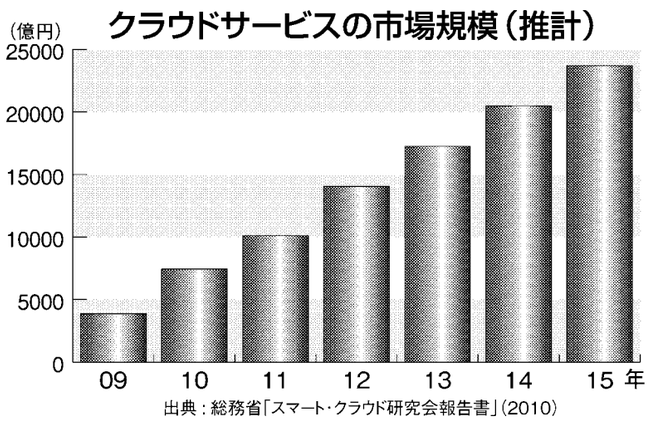
DCは高い技術や提案力が必要で鹿島、大成建設、清水建設、大林組、竹中工務店のゼネコン大手5社が押さえている。DCの施工関連市場規模は推定で年間約2000億円。クラウド市場の拡大を見据えれば、ゼネコンが恩恵を受けるDC建設分野は今後も安定成長が見込まれる。DC新設が一服すると言われている2012年以降も、データ量増加は加速度的に進むため「能力増強の改修を含め15年までは」（大手ゼネコン）明るい。

DCのトレンドはクラウドサービスを採算に乗せるため地方の安価な土地に建設して運用コストを下げる「低コスト型」、金融取引などでシステム安全性や安定性、堅牢（けんろう）性を最優先する都市立地の「高性能型」の二極に分かれ始めている。

大手システムインテグレーター（SI）は常に目が行き届く都市でDCを建設してきた。「大手SIは投資回収のため地方DC建設に当分動かないのでは」と見るゼネコンがある一方で、「海外事業者との競争も視野に地方DCに動く必要に迫られる」と予測するゼネコンもある。SIやDC事業者の投資戦略は定まる途上にある。

大成建設はDCベンチャーのさくらインターネットが、北海道石狩市で11年春着工するクラウド特化型DCを提案し受注した。

さくらのこの新DCは北海道の寒冷気候を使った「外気冷房」など最新技術を採用。省エネルギー化により運用コストを大幅に低減、海外DCと肩を並べるコスト競争力を目指す。



出典：総務省「スマート･クラウド研究会報告書」(2010)

大成建設が受注したさくらインターネットDC完成予想図

米国企業の誘致も

各社、提案力を強化

竹中工務店はクラウド型DCが、地方立地によりコストの優位性を発揮できる部分に着目。DCベンチャー企業と電力会社、通信事業者、地方自治体などに呼びかけコンソーシアムや特別目的会社（SPC）を設立し事業化するスキームを開発した。

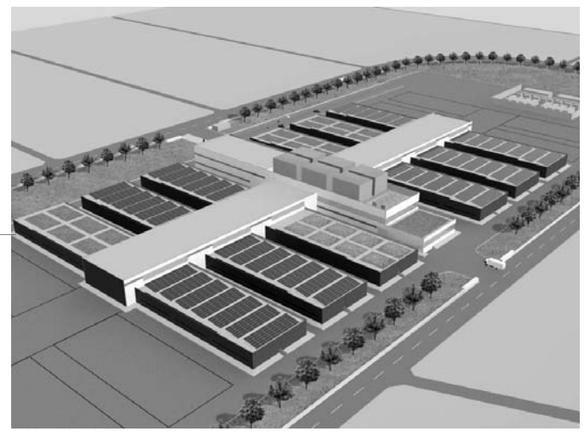
工業団地にDCを誘致したい自治体、大口電力顧客を獲得できる電力会社などにメリットを提供し、DC建設受注につなげるのが狙いだ。

鹿島は工業団地の空きに悩むこうした自治体との連携に加えて、米企業のDCの地方誘致に動いている。同社はITバブルに沸いた90年代の米市場で、競合他社を大きく凌（しの）ぐDC施工実績が強み。

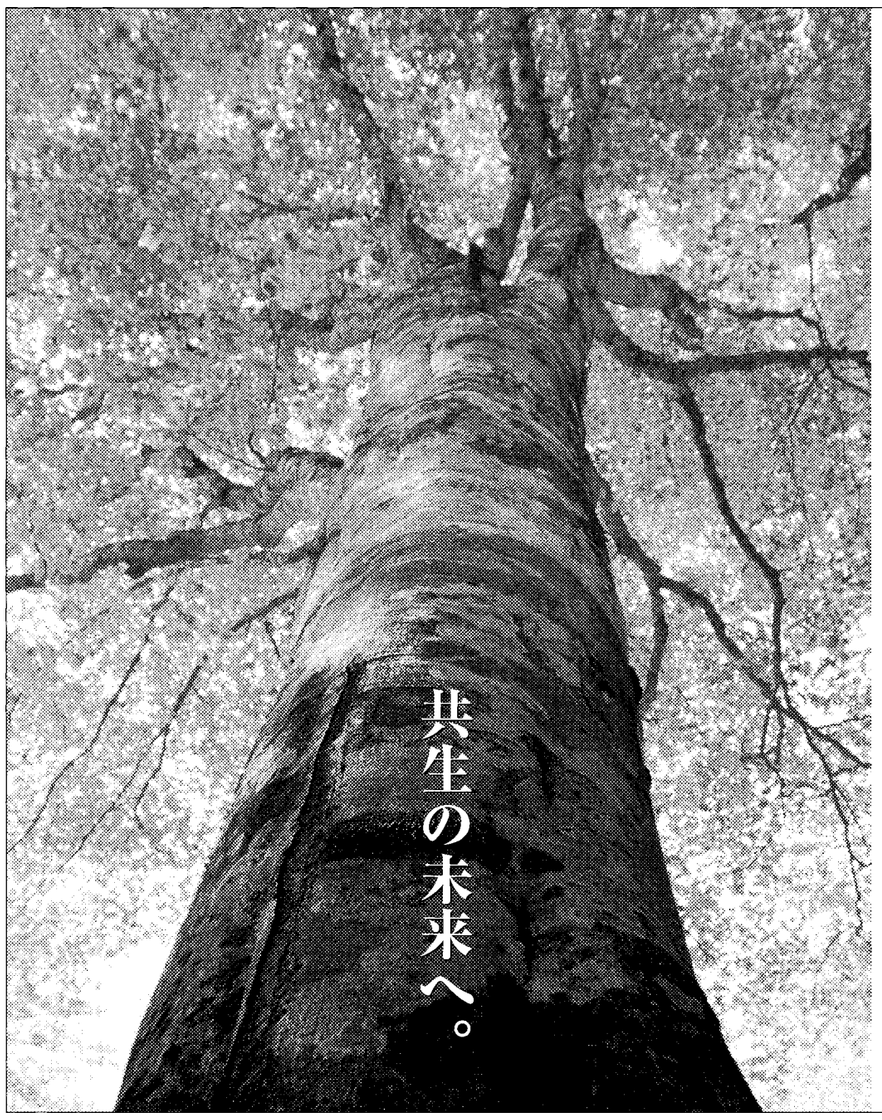
同社はこの時代に築いた米顧客網を活用して日本にDCを呼び込み、日本をシンガポールに次ぐアジアの新たなDCハブにする壮大なビジネス構想を持つ。

国内の大手SIなどと強い関係を持つ大林組は、その強みを生かして大手SIのDC運用コスト最適化や拠点再編の提案に力を入れる。大手SIが全国に持つDC設備の見直しや、拠点網を再構築するといった検討を通じて、各社が取り組むクラウド事業を支援し差別化する戦略だ。10年5月に東京本店内にDC専門チームも設置してフォロー体制も整備した。

清水建設も本社が中心だった顧客への提案体制を支店レベルに広げ、全国レベルであらためて顧客の情報共有体制を強化。受注やフォローの体制整備を全社で急ぎ、大手SIやDCベンチャーを含めて全方位で需要増に備える。



竹中工務店はDCベンチャーや自治体、電力会社などでコンソーシアムなどを組成する新たなビジネスモデルを実現する（地方立地DCの施工イメージ）



ANDO
安藤建設

まだ生まれていない「他者」へ、どんな環境を準備するか。
今を生きる私たちが、未来に対して負うべき責任です。
安藤建設は、人と自然が幸福に共存できる社会を目指し、
次代に貢献する技術で多様なニーズにお応えします。
これからも、“悠久”への想いをカタチにするANDOです。

共生の未来へ。

安藤建設株式会社
東京都港区芝浦3-12-8 〒108-8544
TEL.03-3457-0111（大代表）
ホームページ http://www.ando-corp.co.jp/

地球もMAEDAの大切なステークホルダー

MAEDA 前田建設
http://www.maeda.co.jp